

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



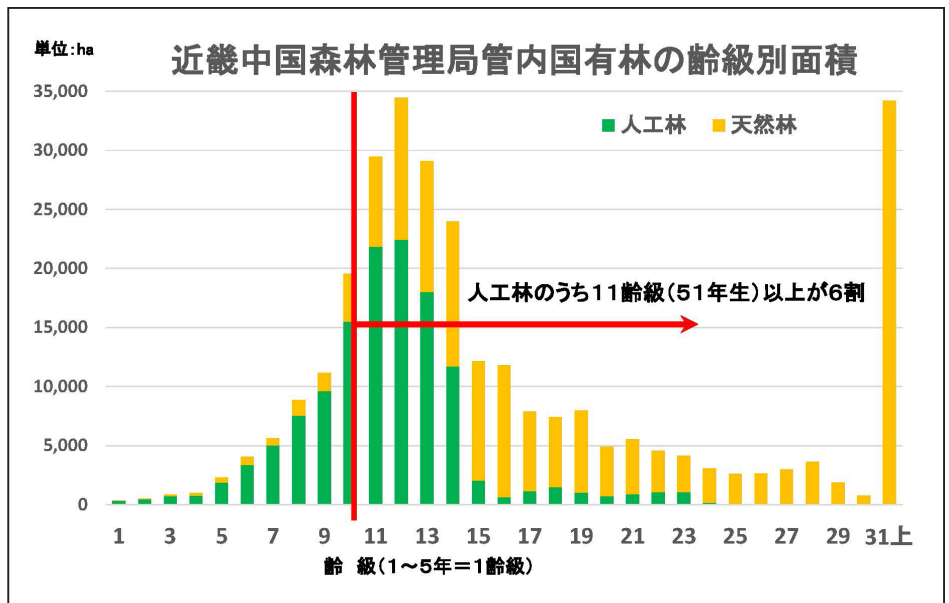
スギ・ヒノキ人工林が伐りごろに！ ～森林の持つ多くの機能に配慮した伐採に向けて～

【資源活用課】

戦後造成された国内の人工林は、本格的な利用期を迎えており、近畿中国森林管理局管内の人工林約 13 万 ha のうち、50 年生を超えるものは 6 割を超えています。

これらの人工林の伐採を計画的に進め、伐採後の再造林を行うことにより、森林の持つ多くの機能（多面的機能）を持続的に発揮させつつ、森林資源の循環利用を推進することが必要です。

そのためには、伐採と並行または連



続して地拵えや植栽を行う「伐採と造林の一貫作業システム」の導入により、労力とコストの削減を図るとともに、環境に配慮した森林の取り扱いが大切となっています。

利用期を迎えた森林資源を「伐って、使って、植えて、育てる」という持続的なサイクルで活用し、二酸化炭素 (CO²) の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ多面的機能を発揮させながら、森林・林業・木材産業の成長産業化につなげていくことが重要です。

このように、充実した人工林資源を伐って使うとともに、植えて育てることを進めていくことで、未来につながる森林の持続的なサイクルを保つことが大切です。



伐期を迎えた人工林

森林には、水を貯留する「水源涵養機能」や土砂の流出を防止する「土砂災害防止機能」、多くの生物・動物を保全する「生物多様性保全機能」、二酸化炭素を吸収する「地球環境保全機能」、木材を生産する「物質生産機能」などの様々な機能を有しており、森林毎に第一に発揮させる機能別にバランスのとれた森林の取り扱いが求められます。

近畿中国森林管理局では、伐採後も森林の持つ機能を維持しつつ、継続的な伐採を行うためそれぞれの森林に応じた伐採を進めています。

■主伐（皆伐、複層伐、択伐）

「主伐」とは木を収穫し、木材としての利用を目的とした伐採で、一定区域にある木をすべて伐採し、跡地に苗木を植え、樹木の世代交代を図りながら収穫する「皆伐」「複層伐」と部分的に伐採して天然更新^{*}を行う「択伐」があります。

○皆伐

一つの伐採面積はおおむね5ha以内とし、できる限り小面積での伐採を行い、隣接林分は同等程度以上の面積を保全し、モザイク状に分散させるように伐採しています。その際に、伐採区域内にある高木性広葉樹は可能な限り保全（極力群状に保全）するように努め、森林の機能を維持していくよう努めています。



皆伐（伐区を分散させて伐採）



皆伐（伐採・搬出の支障とならない広葉樹を保全（伐採直後と5年後））

○複層伐

特に水源の濁水緩和、水質の保全等の理由から非皆伐状態を維持すべく、森林を複数の樹冠層からなる森林に導くため、樹高の2倍程度の幅で、伐採帯と保全帯を交互に設定・伐採する「帯状伐採法」と、群の大きさはおおむね1ha以下でモザイク状に設定・伐採する「群状伐採法」により伐採を行い、伐採跡地に植栽を行い人工造林による複層林を造成しています。

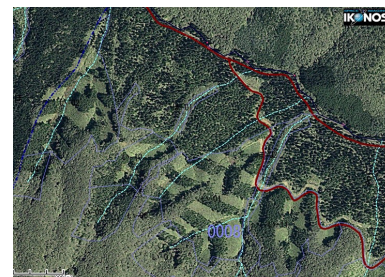
なお、「帯状伐採法」と「群状伐採法」の選択は、森林の状態、林地傾斜等の地形条件、林道等からの距離、伐採から植樹までの作業効率性などを踏まえて判断しています。

○択伐

急峻な地形等、針葉樹を主体とした人工林にあっても、将来的に天然生林へ導くため、抜き伐り（30%程度）を行い、天然力を活用（天然更新^{*}）し高木性広葉樹の混交した林分を造成する育成複層林へ導くための伐採を行っています。

※用語解説

天然更新：森林の伐採後、前生稚樹や自然に落下した種子等から樹木を定着させることで、森林の再生（更新）を図る方法。



空から見た帯状伐採複層林



帯状伐採複層林



広葉樹を保全させた択伐

令和3年度「トライやるウィーク」 ～山崎西中学校2年生の地域体験活動～

【兵庫森林管理署】

兵庫森林管理署では、令和3年12月6日（月）から10日（金）までの5日間、宍粟市立山崎西中学校の2年生6名の地域体験活動を受入れました。

この地域体験活動は「トライやるウィーク」として兵庫県が行っている取組で中学生が職場体験や福祉体験などの地域での様々な社会体験活動を行い、社会的自立に必要な能力を育成することを目的に実施されているものです。今年で24年目を迎えますが、当署としてもその趣旨に賛同し協力しています。

5日間の体験活動では、森林管理署の概要・業務の説明、林内作業における安全教育を行った後、赤西セラピーロードと赤西自然観察教育林での清掃作業、スギ・ヒノキの苗木の植栽、シカなどによる獣害対策のための防護柵の修理作業、コンパス測量機を使用した国有林と民地との境界の管理、林道工事箇所の見学、林道の路面整備作業など様々な体験を行いました。



コンテナ苗の運搬

初冬の空の下、当署職員と一緒に積極的に作業を行い、また、各種作業の役割や必要性などについて積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいました。



シカ防護柵の修理作業

この5日間の体験を通して、働くことの意義、自然の大切さを知り、今後も森林・林業に関心を持ってくれることを願っています。



森林管理署職員と記念撮影

再生林の省力化とシカ対策に関する 現地検討会を開催しました。

【技術普及課】

令和3年12月7日（火）、8日（水）の2日間、近畿中国森林管理局と国立研究開発法人 森林総合研究所 関西支所、和歌山県、地域ブロック関係署等（和歌山署、三重署、滋賀署、奈良所）との共催により、再生林を促進するための課題解決に向けた「再生林の省力化とシカ対策」をテーマに現地検討会を開催しました。

現地検討会には、府県、市町村等の林務担当者や森林組合等、2日間で延べ250人を超える森林・林業関係者



職員による冬下刈りの説明(2日目)

が参加し、関心の高さが伺われました。

1日目は、和歌山県田辺市内の会場で、国、県、研究機関のそれぞれの立場から再生林の省力化、エリートツリー、シカ対策等の課題について6つの講演が行われ、その後、参加者と活発な意見交換を行いました。

2日目は和歌山県すさみ町の宮城川国有林で、ドローンによる資材運搬、捕獲したシカ個体の運搬の実演や国有林が取り組む保育作業の省力化等の成果を見ながら、説明を行いました。

2日間を通し参加者からは、「再生林の省力化・低コスト化が再生林を推進していく上で重要であると再認識できた」等のご意見をいただき、盛況な現地検討会となりました。

今後も近畿中国森林管理局では、国有林のフィールドを活用した現地検討会等の開催により森林・林業に関する技術を普及し、地域の森林・林業の発展に貢献する取組を継続していきます。また、当日の現地検討会の様子は動画を作成し、近畿中国森林管理局ホームページで公開を予定しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/gijyutukaihatu/211207.html>



嵐山の地域の方々による除伐イベントを開催しました。

【京都大阪森林管理事務所】

令和3年12月14日（火）、嵐山地域の方々6名、京都府立大学三好准教授並びに京都府立大学生8名に参加いただき嵐山国有林で除伐作業を行いました。



中塚所長挨拶

毎年開催している地元の方々との意見交換会において、長年出されていた声を踏まえ、繁茂しすぎた常緑広葉樹や枯死木の危険木等を整理し、美しいサクラやモミジが見られる森林に向けての取組の一つとして、今年度初めて企画しました。

作業の開始にあたり、三好准教授から作業の意義・今後の嵐山国有林の目指すべき姿等を説明いただき、その後防鹿柵内の施業地でのこぎりと剪定ばさみによる除伐作業を行いました。

参加者の皆さんは慣れない山腹斜面を移動するのに四苦八苦し、足元に注意しながら作業をしていました。



除伐作業の様子

参加者の皆さんからは、「大変有意義な時間を過ごせた」、「こんなに疲れるとは思わなかった」「林内が明るくなり、除伐作業の効果は十分期待できる」等の声をいただきました。

地元の方々のみならず、やがては、「嵐山ファン」の方々にも参加いただけるイベントにしていければと思います。

だいせん 大山スキー場・安全祈願祭に参加しました。

【鳥取森林管理署】

令和3年12月24日（金）、だいせんホワイトリゾートにおいて、だいせんホワイトリゾートオープニングセレモニー実行委員会主催のスキー場安全祈願祭が執り行われ、中本署長が参加しました。

当日は、ほどよい積雪と恵まれた天候の中での安全祈願祭となり、神主による祝詞の奏上や署長ほか地元後援会等の来賓による玉串奉奠が執り行われました。



神事の様子

その他にも地元スキークラブ員及びスキー選手によるデモンストレーション滑走が実施され祈願祭参加者やスキー客から歓声が上がりました。

年末の大雪もあり全面滑走可能なゲレンデコンディションが続いています。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部コースの閉鎖を余儀なくされているとことですが、今後も最良のゲレンデコンディションが維持されて当スキー場が賑わいますことと、スキーヤーたちの安全が守られることを願っております。

なお、だいせんホワイトリゾートでは鳥取森林管理署が管理する国有林をゲレンデ敷等としてご活用いただいています。



参加者での記念撮影

日南町樹木育苗センター竣工式に出席しました。

【鳥取森林管理署】

令和3年12月22日(水)、鳥取県日野郡日南町阿毘縁^{あびれ}に完成した「日南町樹木育苗センター」竣工式に中本署長が出席しました。

この施設は、今後山林の皆伐再造林が進む中、需要が高まる苗木の安定供給を目指し、年間12万本のカラマツや少花粉のスギ・ヒノキの生産が見込まれています。

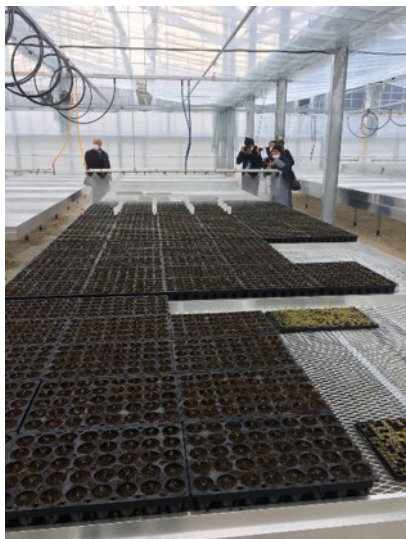


中本署長の挨拶

また、コンテナ苗を一貫生産するため、旧小学校跡地を整備し、約1,200m²の施設面積に山陰地方初のハウス施設の作業棟において、育苗を開始する予定です。

その他にも、苗の生産能力を高めるため、種子の充実度を赤外線で測定し判別する「種子判別機」や、播種の作業効率の向上を可能とする「半自動播種機」を設置しています。さらに、発芽に適した環境を確保する「発芽庫」や苗コンテナへの自動灌水が可能な「栽培棟」が整備され、労働環境の改善と作業効率の向上が見込まれています。

この施設で生産された苗木は県内外に販売することが予定されており、当署においても今後必要となる苗木の



栽培棟の自動灌水装置

安定した供給を期待するところです。

庁舎への立入制限について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当分の間、業務関係者以外の庁舎への立入りを制限させていただきます。

庁舎1階「森林(もり)の展示ギャラリー」についても展示を休止しております。

大変ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

桜ノ宮合同庁舎管理者

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【技術普及課】

○森林のギャラリー(局庁舎1階)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示を休止しています。

これまでの展示の内容は下記の局ホームページで見ることが出来ます。ご理解ご協力の程お願いします。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



○フォレスター NEWS 2月号(No.57)を発行しました。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/katudou.html#近畿中国局フォレスターNEWS>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信 119号を発行しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(54通目)を発行しました。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami.html>



花草木

【スイセン（水仙）】

スイセン（水仙）（学名：Narcissus）は、ヒガンバナ科スイセン属に属し、原産地は地中海沿岸のスペインやポルトガルなどのヨーロッパから北アフリカで約35種類の原種が知られています。

スイセンの花は、白や黄色で12月から4月に咲き、早春の光と風の中に長い茎の先にうつむいたような、どこか儂げな一面をもった魅力的な花びらを揺らして、春の庭によく似合います。

また、スイセンは、ほのかな甘い香りで春の訪れを知らせてくれる花でもあり、その香りは天然香料として、香水の原料にもなっています。

なお、スイセンの葉や球根にはアルカロイドという毒があり、悪心や下痢、発汗、頭痛、嘔吐などの中毒症状を引き起こします。葉っぱがニラ、球根がタマネギに似ていることから、年間で5～20人程が誤飲してしまうことがあり、厚生労働省などでは注意を呼びかけています。畑のわきなど間違えやすい場所には植えないよう注意してください。

スイセンの花言葉は「自己愛」、「うぬぼれ」、「愛に応えて」ですが、色別にもあり、白は「尊敬」、「神秘」、黄色は「もう一度愛してほしい」、「私のもとへ帰って」となっています。

スイセンは、花がもつ清楚なイメージとは真逆の花言葉をもっています。これは、学名の由来となった「ナルキッソス」という美少年にまつわるギリシャ神話のエピソードに由来しています。黄色のスイセンの花言葉は、別のギリシャ神話に由来しています。



大阪市内の公園で撮影したスイセン（水仙）

我が所のスタッフ

兵庫森林管理署

羽間 友哉（はざま ともや）（令和3年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

私は業務グループの係員として経営、森林育成、資源活用を担当しています。採用1年目であり、担当以外の業務や、森林官の現場出張に同行させてもらうこともあり、担当に縛られない多岐にわたる業務（閲覧図書等の準備、巡検報告の取りまとめ、就業体験の学生対応など）に携わっています。

入庁当初の森林・林業の知識は皆無に近い状態でしたが、現在は、専門用語や森林施業の流れをおおまかに理解できるようになりました。それらの理解を更に深めて、近い将来には今の仕事が社会全体にどのように役立っているのかを体系的に理解できるよう日々業務に励んでいます。



学生に就業体験内容の説明をしています

【職場の雰囲気は？】

職場の雰囲気は和やかで、頼りがいのある上司に囲まれています。

業務に関しても丁寧に指導をしてくださり、学びの多い充実した日々を送っています。

【林野庁の魅力は？】

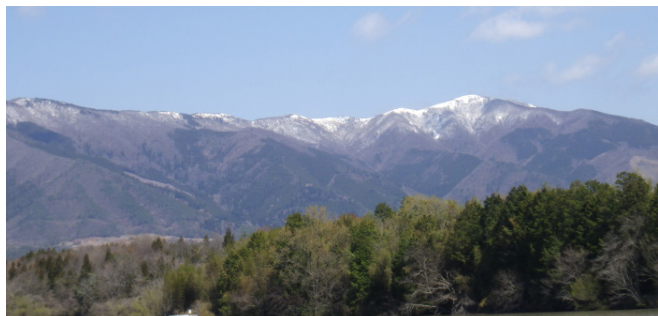
国土の約2割を占める国有林で仕事ができることだと思います。人の背丈に及ばない苗木の植え付けから成林の主伐まで、森林整備の各過程に関われることは大きなやりがいとなっています。

森林事務所紹介

津山森林事務所 (岡山森林管理署)

首席森林官 福本 真也 (ふくもと しんや)

岡山森林管理署津山森林事務所は、岡山県北東部の津山市日本原 (旧勝田郡勝北町) に所在し、吉井川流域の美作市、奈義町、美咲町の全域及び鏡野町、津山市の一部と旭川流域の久米南町を管轄し国有林 3,500ha と官行造林 500ha を管理しています。



那岐山 (那岐山国有林)

当事務所では、首席森林官 (事務取扱) と行政専門員の 2 名で広範囲にある国有林の管理を行っています。当事務所管内では、近年、分収育林契約の期間満了に伴い立木販売による主伐とそれに伴う新植を行っていますが、管内全域においてニホンジカによる食害が発生しています。食害を防止するため、植栽地全周には侵入防止柵を設置しています。進入防止柵の高さは 180cm ですが、シカは急峻な傾斜

地の岩石や切株の上から柵を超えヒノキの新芽を食い荒らしたり、またイノシシは網の接地面を掘り返し網を傷めてシカの侵入を助けたりとその対策や管理に苦慮しているところです。

各新植地は隔月ごとに点検を行い、上方からの侵入に対しては網の嵩上げ、下方からの侵入に対してはアンカーの打ち直しを行い無事成林することを願って取り組んでいます。

美作市内の山ノ神^{やまのかみ}国有林や奈義町内の木地山^{なぎ}国有林、那岐山^{きじやま}国有林などは鳥取県との県境に位置し「氷ノ山^{ひょうのせん}後山^{うしろ}那岐山^{なぎさん}国定公園」の一角にある国有林です。

特に那岐山 (標高 1,255 m) は日本三百名山 (日本山岳協会選) に選定され、登山道は岡山県や地元奈義町が借受け整備がされており、山頂付近には避難小屋やトイレもあります。春から初夏にかけてはドウダンツツジやシャクナゲなどさまざまな花が咲き誇り、この地域の固有種で絶滅危惧種である「ナギヒロハテンナンショウ」が標高 900 m 以上に自生し 5 月中旬に開花が見られます。また、秋には山が紅葉し、登山道入口にある菩提寺にある大銀杏も鮮やかな黄色に染まるなど一年を通じて初心者からベテランまで楽しめる登山者が絶えません。



シカ防護柵の点検・修理



防護柵に守られて成林しつつある造林地



ナギヒロハテンナンショウ

那岐山三角点から西に稜線をたどると滝山三角点 (1196 m) があり、少し下ると滝山^{たきやま}国有林です。この山のすそ野は広大な自衛隊演習場で国有林は公道と隔絶されていますが、巡視等の経常業務は毎月 5 日間、協定により演習場内を車両で通過し入山が可能になります。那岐山、滝山とも標高 1,000 m 以下ではスギ・ヒノキの森林整備を行っています。ここでも新植地にはシカの侵入防止柵も設置していますが、毎年雪により柵が倒伏し、融雪から見回りまでのわずかの期間に食害を受けてしまいます。

昨秋の新植地に被害がないことを祈るばかりです。

シリーズ『国有林 最前線！』

～都市近郊林・^{みのお}箕面国有林での取組～

箕面森林ふれあい推進センター

箕面森林ふれあい推進センターでは、都市近郊林にある箕面国有林（大阪府箕面市、京都大阪森林管理事務所管内）において、地域のボランティア団体等が行う森林整備、多様な生物多様性の保護、教育職員等が行う森林環境教育（森林E S D）、さらには里山再生、森林の獣害対策など、地域の課題解決に向けて支援を行っています。



森林環境教育教員研修でのネイチャーゲーム（色あわせ）の様子



カブトムシ里親まつり（飼育編）イベントの様子



森林環境教育プログラム「森の探検隊」の様子

そのためには、関係者との調整や連携して行う必要があるため、早めの連絡調整が必須となっています。

具体的な取組の一例を紹介しますと、森林環境教育では、センターオリジナルの環境教育プログラムとして「森の探検隊」の実施、森林環境教育教員研修の実施、森林環境教育手引書〈小学校編〉の作成、創作紙芝居及び絵本の作成などに取り組んでいます。



創作紙芝居「雨水のぼうけん」を上演の様子



創作紙芝居「もくざいのヒミツ」

里山再生では、箕面国有林のエキスポ'90 ^{みのお}のお記念の森一帯で、「オオクワガタの棲（す）棲める森づくり」として、クヌギ、コナラなどを植栽、保育を行いながら落葉広葉樹林を主体としたかつての里山再生に取り組んでいます。

森林の獣害対策では、地域の行政機関やボランティア団体と連携しながら、捕獲事業、行動特性調査や森林植生衰退調査など、科学的根拠に基づいたニホンジカの個体数管理指針の作成に向けて取り組んでいます。

このように、特定非営利活動法人等が行う野外活動や森林環境教育などを支援するため、関係機関と連携しながら取り組んでいます。



ボランティアによる森林整備（高枝切りを作業中）



罠で捕らえたシカ